

19歳 暮まっしぐら



今回は、栗山のすみれ団地に住んでいる鈴木英彰さん（十九歳）の登場です。

近くは、栗山のすみれ団地に住んでいる鈴木英彰さん（十九歳）の登場です。

近頃の会社に勤めているということですが？
私が長男ということもあって、なるべく近くで、安定した会社に——ということから、東金の塗料会社に去年の四月から勤めています。勤務時間は、八時半から五時まで、土曜日と日曜日が休みなんですよ。
てきばきと話す鈴木さん。会社へは車で通っているそうです。
週休二日制ということですが、休みの日はどうお過

休みは車でドライブへ 鈴木 英彰さん（すみれ団地）

ごしですか？
友だちとドライブに出かけたり、映画を見に行ったりしてですね。家に居るときは、レコードを聞いたり、車の掃除をしたりしています。
二年がかりでためたお金で、車を買ったばかりという鈴木さんは、助手席に座ってくれるすてきな恋人を募集しているんですが——と話してくれました。
鈴木英彰さん、十九歳。ただ今青春まっしぐら！ すてきな恋人募集中です。

今年で三年目を迎え、月二回の練習を楽しみにしている、養護老人ホームの生け花クラブのみなさん。

楽しみにしている生け花……

練習は、光町の岩沢涼風先生の教えて、一時間ほど行っています。

「ホームのおいちゃん、おばあちゃんが、たいくつしないで楽しんで生け花……」



こびにちは

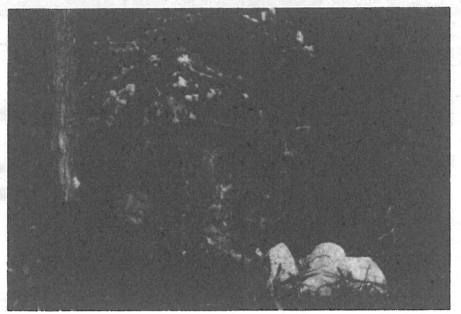
養護老人ホーム 生け花クラブ

「生け花をしている時は、みんなの目が輝いていますね。先生がくるころになると、テーブルを並べて準備をしたり、まだこないかなど、何回も玄関まで見に行ったりしてますね」と話す老人ホームの小川克己所長。
練習で生けられた花は、ホームの事務室、応接室、給食室などに置かれ、老人ホームのみなさんや同ホームを訪れる方がたの心をなごましています。

「生け花をしている時は、みんなの目が輝いていますね。先生がくるころになると、テーブルを並べて準備をしたり、まだこないかなど、何回も玄関まで見に行ったりしてますね」と話す老人ホームの小川克己所長。
練習で生けられた花は、ホームの事務室、応接室、給食室などに置かれ、老人ホームのみなさんや同ホームを訪れる方がたの心をなごましています。

って現在にいたっているのです。
道陸神様は昔から地元の人々に親しまれています。ずっと以前に開発工事が行われた時、大型運搬車が曲れなくて困ってしまいました。しかし、地元の人々の道陸神信仰を考慮し、祠を避けて新道を作りました。そのために道陸神様の敷地が三角になっているのです。
この辺りでは、毎年正月十四日に、前の年に祭った縁起達磨や正月用の飾付け等を道陸神様に納める風習が今でも一部に残っています。
また、毎年節分の夜に、あけの方（恵方とも呼び、一切の凶殺を退け、幸福を迎える神の在る方角）に棧俵に幣束を建てて祭り「福は内、鬼は外」の豆蒔き第一声はここから始める仕来りになっていますが、この棧俵も、正月の十四日に道陸神様に納め、改めて「福を招き、邪鬼を追払う」祈願をするというのです。

さて、栗山の道祖神様は、県道沿に立派な石の鳥居を構えた木立ちの中に、ひっそりと建っています。祠には、延享二年（一七四五）太平洋戦争の頃、道祖神様は、中央道を中心した反対側に建ててしまいましたが、飛行場用地に掛ったので取除くことになりました。ところが、その作業にあたって、いろいろな故障が続出しましたので、やむなく、至近に場所を求めて鳥居も更新して祭った、という経過があります。栗山地区の道祖神信仰は相当厚いようです。この辺りでは、屋敷（宅地）の東と北に道路がありますと、その角に道祖神を祭り、悪霊災害退散を祈願する風習があります。
道陸神または道祖神と呼び、その名称は異なりますが、各々の地区に残る道祖（陸）神信仰が、奇しくも道路に係わる工事に抵抗した形を考えて見ますと、やはり「道の神様」として評価したくなるのです。○写真は、長倉の「どうろく神様」向う側の坂を上ると幻の金刀比羅街道です。（紙面の関係で案内図は割愛いたしました）



ひっそりとただずむ
長倉のどうろく神社

横芝町文化財審議会委員
小沢春光さん寄稿